

# ショート#1

[ライブラリ](#)

## 消費税の仕組み

派遣社員を雇った方が消費納税額が低く抑えられるので、正社員よりは派遣社員を雇うことになり、なおかつ消費税は企業の利益と無関係に納めなければならないため、中小企業の経営を圧迫する…という動画がありましたので、当サイト管理者が書いたコメント貼り付けて、消費税の仕組みを説明します。

企業が納める消費税額 = 課税売上の消費税額 - 課税仕入れの消費税額

自社の正社員に支給する給料に消費税はかかりませんので、給料に関する課税仕入れの消費税額は 0円です。派遣先企業が派遣元企業に支払う代金には消費税がかかるので、（派遣先企業の）課税仕入れの消費税額はそれなりにあります。

課税仕入れの消費税額は大きい方が、（納税時期に納める）消費税は少なくて済むので、企業の負担を減らすには、正社員よりも派遣社員を雇ってしまう…が動画の主旨と思います。

消費税率10%、課税売上1100円、課税仕入れ330円の場合

課税売上の消費税額 = 100円

課税仕入れの消費税額 = 30円

100円-30円=70円

企業が（納税時期に）納める消費税は 70円ですが、課税仕入れの消費税額（30円）がもっと大きければ、（納税時期に）納める消費税は少なくて済みます。少なくさせるには派遣社員を雇えばいい…ということです。

でも、派遣元企業に支払う代金と一緒に消費税も支払ってますので（派遣元企業に預けることになる）、先か後かの違いです。

消費税は預かったお金なので、手を付けてはいけませんが、中小は分けている余裕がありませんので、納税時期には、運転資金から消費税を捻出することになり、経営を圧迫します。

未納分の税金は自己破産しても免除されませんので、借金してでも納めた方がよいことになり、普段から「高いな」と思いながら少しずつ支払う消費税と、納税時期にまとめて納める消費税は違う、と言えます。

## くじの束

当たりくじが引かれたら、当たりくじを補充しなければいずれハズレくじの束になります。

当たりを補充するなら、補充元から引かせてもらえば確実に当たります。補充元は当たりの集まりなんですから。混合の束からは不確実な補充しかできません。

当たりが含まれているなら指差してもらいます。指差しできないなら、当たりが含まれているのに「当たりの存在証明」ができない奇妙なことが起きています。当たりの場所が分かるなら、後で係員が買えばいいのです。あなたが係員になってもいいですし。

該当の束に当たりが含まれてなければ、ハズレの集まりです。ハズレの束から当たりを引くことはありません。絶対に

## AI人間

「部長は二言目には『AI を使って生産性を上げろ!!』とおっしゃいますが、部長が必要としているのは AI人間ではありませんか？ AI人間が必要なら、人工知能搭載人型アンドロイドを造ればいいことになりますが、技術が足りないから造れないなら、技術があれば造ることになります。資金が無いから造れないなら、資金があれば造ることになります。

アンドロイドが普及するなら管理職もアンドロイドが担いますので、部長も私らもお払い箱になります。部長はアンドロイドだらけの世界を阻止しようとしている隠れたヒーローなのか、それとも気付きを与えに来た仙人なのか分かりませんが、人の生産活動にAIが深く関与することについて警鐘を鳴らしたいのではないかと…」

# 生物多様性

カラスは鳴き声がうるさいですし、繁殖時期になると巣の近くを歩く人間に威嚇することがありますので、人間から嫌われます。ツバメは小さな昆虫を食べて、人間のためになることをしてくれるせいか、人間から好かれます。

人間が生きるように、カラスもツバメも生きようとしていますが、ツバメの巣は歓迎され、カラスの巣は撤去されます。

生物多様性を謳いながら、子孫を残していい種を人間が選別しています。また、外来種という括りで、生物の生息場所を人間が決めています。人間が掲げている生物多様性は、人間優先の生物多様性で、人間の快適な生活を確保した上での多様性です。

しかしながら、熊が街中に出没すれば、撃ち殺すしかありませんし、カラスが人間の生活を邪魔するなら、巣を撤去することになります。

結論として、すべて人間の都合であることを認めよう、ということです。

益鳥・害鳥・益虫・害虫の判断基準は人間です。カラスを基準にすれば、繁殖を妨害する人間が害悪なのです。

# 因果応報

因果応報は、自分のしたことは自分に返って来る法則なので、人に良いことをしたら、良いことが自分に返って来ます。人を傷つけたら、傷つけた人に悪い結果が返って来ます。傷つけられたのが自分なら、過去に自分が人を傷つけており、現在返って来たことになります。

「因果応報による報いは『誰によって』が定められてないことから、自分が傷つけられた報復を自分がしている」は曲解です。因果応報は法則であって、報復を正当化する手段ではありません。自分による報復も因果応報の一部と見なし、報復を実行に移すなら報復の報いが自分に来ます。

それでも構わないと言っても、現時点で腹の虫が治まらないように、報復の報復が来たときもやはり腸が煮えくり返る思いをして、報復合戦に入ります。負の感情は自分で昇華するしかありません。

他人を使って満たされても一時的でしかなく、満足したと思っても、今まで気にしなかった事柄が気になり出し、再び腹を立てます。自分で自分を傷つけている状態です。自分で自分の感情を制御するしかないのです。

数字の増加や横ばいは、投稿者の「投稿」という因果の報いです。浮上や沈没はリスナーによる「評価」という報いで、ボタンを押す・押さないという因果から来ます。これらもまた因果応報による法則で説明が付き、自分のしたことは良くも悪くも結果として、自分に返って来るのです。

## 思考の根底

「親に心配かけさせた子供には、ビンタを一発食らわしてやった方がいい」と思っているなら、媒体の影響を受けている可能性があります。なぜなら、すべてを言葉で諭す媒体ばかり観ていたら、「夜遅くに帰って来た子供にビンタする」と聞いた時、「言葉で伝えればいいのに、なんでビンタするの？」となるからです。

「この怒りを誰にぶつければいいの！」とお怒りの様子が媒体に載れば「怒りは他人にぶつけて解消するんだ」と受け取ってしまいますが、感情の持ち主は自分ですので、本来は、自分の感情は自分一人で制御しなければなりません。

事件事故という事実の一つでも、受け取り方は人それぞれなのに、大変な物損事故の背後で明るい曲が流れれば笑い話になりますし、悲しい曲が流れれば悲惨な事故に映ります。

媒体に代理報復のストーリーが描かれていれば、同じ状況になったときに模倣を思い付きます。

投稿者も含めて我々は、媒体と同じ状況になったとき、媒体の登場人物と同じ感情の起伏を起こし、考え方も行動も登場人物と同じにしている可能性があります。

自身の行動が純粹に自分の内側から来るのか、検証した方がよろしいと存じます。